

# 共同利用・共同研究成果発表会

日時：平成 28 年 2 月 29 日 (月) 12:45 ~ 18:10

平成 28 年 3 月 1 日 (火) 9:10 ~ 12:00

会場：高知大学 海洋コア総合研究センター セミナー室

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通じ、地球環境変動の要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として設立された共同利用研究施設です。この成果発表会は、広く全国の皆様に今年度の研究成果をご紹介します。

2月29日(月)

12:45-12:50

開会挨拶 高知大学 海洋コア総合研究センター 副センター長 小玉 一人

共同利用・共同研究拠点課題選定委員会委員長挨拶 東北大学大学院 理学研究科 教授 井龍 康文

12:50-14:05 (座長：山本 裕二)

O-01 「高知コアセンターバスルー型超伝導磁力計のセンサーレスポンスと位置決め精度および古地磁気データのデコンボリューション」 小田 啓邦 (産業技術総合研究所)

O-02 「Rock-magnetic properties of single zircon crystals sampled from the Yangtze River」 佐藤 雅彦 (産業技術総合研究所)

O-03 「磁気岩石学的解析による御嶽火山 2014 年噴火プロセスと堆積物の堆積プロセスの解明」 齋藤 武士 (信州大学)

O-04 「スランプ褶曲を受けた細粒火山灰層の古地磁気と帯磁率異方性」 星 博幸 (愛知教育大学)

O-05 「福井県越前焼 3 古窯と島根県杉沢遺跡 2 炉跡の古地磁気・岩石磁気」 畠山 唯達 (岡山理科大学)

14:20-15:35 (座長：山口 龍彦)

O-06 「西部赤道太平洋堆積物の磁性鉱物量変動及び残留磁化獲得に関わる堆積作用・生物擾乱の研究」 山崎 俊嗣 (東京大学)

O-07 「IODP 第 317 次航海ニュージーランド沖掘削コアから採取された底棲有孔虫 *Nonionella flemingi* の酸素・炭素同位体比変動とその海水準変動との関連」 竹内 時実 (信州大学)

O-08 「第四紀の氷河性海水準変動が日本海の海洋環境に与える影響」 佐川 拓也 (金沢大学)

O-09 「Bonaparte 湾海洋堆積物による海洋酸素同位体ステージ 3 における古環境復元」 石輪 健樹 (東京大学)

O-10 「鹿島沖海底コア MD01-2421 に介在する更新世テフラに関する新知見」 青木 かおり (立正大学)

15:35-17:10 ポスター発表：概要紹介，引き続いてコアタイム

P-01 「A test on deconvolution and inter-laboratory calibration of superconducting rock magnetometer measurement using synthetic sample」 Chuang Xuan (サザンプトン大学)

P-02 「Rock magnetic properties indicating bottom current variability in the North Atlantic: ice-sheet/ocean interaction in MIS 100」 大野 正夫 (九州大学)

P-03 「炭酸塩岩の化学消磁」 穴井 千里 (熊本大学)

P-04 「インドチャイナ地塊西縁部 (ラオス, タイ) からのペルム紀～三畳紀堆積岩の古地磁気データ」 宇野 康司 (岡山大学)

P-05 「太古代チャートに対する古地磁気磁石テスト」 白井 洋一 (海洋研究開発機構)

P-06 「エチオピア洪水玄武岩を用いた約 30Ma の古地球磁場強度」 吉村 由多加 (京都大学)

P-07 「岡山県佐山東山窯跡の考古地磁気学的研究－方位と強度－」 北原 優 (九州大学)

P-08 「天然最強クラスの残留磁化を持つ海洋底玄武岩」 藤井 昌和 (東京大学)

P-09 「Elemental and magnetic mineral distribution changes in Sendai Bay sediments caused by the 2011 Tohoku tsunami revealed by geochemical and rock magnetic analyses」 川村 紀子 (海上保安大学)

P-10 「2011 年大津波後の浅海堆積物に見られるバイオターベーション構造」 清家 弘治 (東京大学)

P-11 「地震性泥質タービダイトの微細堆積・変形構造の研究」 奥津 なつみ (東京大学)

P-12 「KH-13-5 で採取された房総沖の海底堆積物の物性及び磁化特性」 森王 祐至 (山口大学)

P-13 「日本海溝ホルストグラベン上の堆積物の岩相と物性：新青丸 KS-15-3 航海概要」 山口 飛鳥 (東京大学)

P-14 「淡水性の泥層からなる難透水層中の流体の通り道－房総半島北部の下総台地での例－」 荻津 達 (千葉県環境研究センター)

P-15 「多孔質炭酸塩岩の貯留岩特性と初期続成作用が及ぼす影響－沖縄県南大東島大東層を例に－」 島津 崇 (熊本大学)

P-16 「南部マリアナ海溝陸側斜面冷水水域 (Shinkai Seep Field = SSF) 産チムニーの内部構造」 石井 輝秋 (深田地質研究所)

P-17 「天然アパタイト結晶と生体硬組織のアパタイト結晶との比較－生体硬組織における標準試料の可能性を探る－」 三島 弘幸 (高知学園短期大学)

P-18 「海洋における鉛安定同位体組成の分析法の開発」 則末 和宏 (新潟大学)

P-19 「北極海の約 4,500 ~ 5,000 万年前の海底堆積物 (IODP Exp. 302) の地球化学：微量元素分析から探る海洋環境の変遷」 山口 耕生 (東邦大学・NASA)

P-20 「南大洋コンラッドライズにおける最終氷期以降の海底堆積物の硫黄同位体地球化学」 酒井 希望 (東邦大学)

P-21 「Iron isotope geochemistry of 3.2 Ga old black shales from Pilbara, Western Australia」 長島 有紗 (東邦大学)

P-22 「西オーストラリアの約 32 億年前の陸上掘削珪質堆積岩の地球化学：鉄の存在形態別分析から探る海洋環境」 藤田 紗織 (東邦大学)

17:10-18:10 (座長：岡村 慶)

O-11 「完新世中期における西太平洋熱帯域の海水温および塩分の季節変動復元」 井上 麻夕里 (岡山大学)

O-12 「南大洋 Conrad Rise (KH10-7) の海底堆積物中の C, Fe, P の化学種別存在量から探る最終氷期以降の酸化還元状態と栄養塩濃度の変遷」 下出 直幸 (東邦大学)

O-13 「埋没深度数十 cm から数百 m までの南海トラフの泥質堆積物の微細組織の変化」 藏永 萌 (山口大学)

O-14 「ゴンドワナ大陸北部における三畳紀大陸風化史；ネパール・オマーンの例」 吉田 孝紀 (信州大学)

3月1日(火)

9:10-10:25 (座長：池原 実)

O-15 「ガーナ/ペリミアン帯陸上掘削 (GHB) 速報：古原生代の海洋底環境復元プロジェクト」 清川 昌一 (九州大学)

O-16 「32 億年前の熱水活動と海底環境：重晶石の硫黄同位体について」 三木 翼 (九州大学)

O-17 「ガーナ・ペリミアン帯ケプスリーポイント層群の地質構造と層序」 吉丸 慧 (九州大学)

O-18 「薩摩硫黄島における鉄沈澱物の堆積作用：コロイド粒子の挙動」 原田 拓人 (九州大学)

O-19 「7 億年前の鉄鉱層の堆積場復元：東エジプト・EL Dabbah」 鈴木 大志 (九州大学)

10:40-11:55 (座長：村山 雅史)

O-20 「放射非平衡による海底熱水性硬石膏の年代測定の試み」 豊田 新 (岡山理科大学)

O-21 「人工地層と液流動化－千葉県浦安市を例として－」 楡井 久 (茨城大学)

O-22 「東京湾岸埋立地の人工地層中における 2011 年東北地方太平洋沖地震時の液状化－流動化部分と非液状化－流動化部分－オールコアの剥ぎ取り面と X 線 CT 画像から－」 風岡 修 (千葉県環境研究センター)

O-23 「炭質物の元素組成から検出された陸上付加体巨大分岐断層の地震性すべりの痕跡」 金木 俊也 (大阪大学)

O-24 「延岡衝上断層掘削コアを用いた沈み込み帯深部巨大分岐断層の構造・物性解析」 浜橋 真理 (東京大学)

11:55-12:00

閉会挨拶 高知大学 海洋コア総合研究センター長 徳山 英一

高知大学 海洋コア総合研究センター

URL:<http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/>

\* 共同利用・共同研究は、国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の協力を得て実施されています。